

概要

OECDに対する厚生労働省の財政的貢献の推移

年度	Ⅱ部分担金			任意拠出金	
	ユーロ	千円	内容	ドル	千円
2003(H15)	80,302	9,395	(化学品プロジェクト)	400,000	48,800
2004(H16)	54,275	6,947	(化学品プロジェクト)	413,000	45,430
2005(H17)	88,765	12,072	(化学品プロジェクト)	324,933	44,191
2006(H18)	66,725	9,075	(化学品プロジェクト、地域経済雇用開発プログラム)	324,933	44,191
2007(H19)	102,839	15,117	(化学品プロジェクト、地域経済雇用開発プログラム)	300,619	44,191

(注) 1. OECDの活動は、Ⅰ部分担金(全加盟国に共通する利害に関する中核的な活動に充てられるもの。外務省が一括して拠出)、Ⅱ部分担金(一部の加盟国が参加するプロジェクトに充てるもの)及び任意拠出金(加盟国が任意にプロジェクトに拠出するもの)により運営されており、厚生労働省はⅡ部分担金や任意拠出金を通じて財政的貢献をしている。
2. 任意拠出金は、主に雇用政策、医療政策、社会政策等の分野に対し拠出している。

資料編

⑫ 国際協力

国際交流

概要

国際交流の概要

厚生労働省では、厚生分野、労働分野における先進国共通の課題解決に資するため、政府間交流を行っている。

1. 近年の厚生分野における主な政策対話(過去3年)

時期	名称(開催地)	参加国	テーマ
2004年11月	日豪保健福祉協力(オーストラリア)	オーストラリア、日本	自殺予防～文化、地域及び地域ケア～日豪の展望
2005年10月	日・北欧高齢化セミナー(東京)	ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、日本	地域における高齢者介護のあり方
2007年 4月	日中韓三国保健大臣会合(韓国)	中国、韓国、日本	鳥・新型インフルエンザ対策
2007年 5月	日・北欧高齢化セミナー(ノルウェー)	ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、日本	認知症と倫理・技術

2. 近年の労働分野における主な政策対話(過去3年)

時期	名称(開催地)	参加国	テーマ
2005年 2月	日韓政労使交流(韓国)	韓国、日本	若年者雇用と職業能力開発
2006年 3月	日・EUシンポジウム	欧州委員会、日本	グローバル化の中での雇い主・雇員双方の向上
2006年 4月	日韓政労使交流(東京)	韓国、日本	高齢者雇用促進政策
2006年11月	日独政労使交流(東京)	ドイツ、日本	就業促進施策(若年者、高齢者及びパートタイム労働者)、最低賃金制度